KYOTO Technical Site

取材・文／沢田 眉香子
撮影／中島 光行

入り口の威容。一階は大きな吹き抜けのフロアの発送場。京都の呉服を全国に発送するための荷物が集まっていた

周囲にまったく背の高い建物がない。竣工当時、いかにこのビルが突出して近代的であったかを物語る姿だ

四条烏丸賑わいの再生。それは、「京都人が求めているもの」を探る旅だった。

「衣食足りた」大人のために

昨年12月4日、「COCOON烏丸」はオープンした。初冬の大路に、そこだけ春が来たような若葉色のファサードが輝く。そのガラスのファサードの内には、古い名建築の姿がそのまま残されている。古くから京都に住む人ならば、ここが京都の呉服業界の隆盛とともにあった「旧京都丸紅ビル」だと気づくだろう。

京都に久々に登場する大型商業施設とあって、オープン前から期待も高かった。果たしてその内容は、インテリアやカフェ、映画館というラインアップ。アパレルやファストフードなどはない。期待を胸に来店した大人たちには、同施設が対象とする客層がはっきり見えただろう。このビルが呼ぶ客層は「衣食足りたあと」の大人である。

歴史ある名建築に下された指令

「COCOON烏丸」がこの姿でお目見えするまでには、実は若干の紆余曲折があった。そのプロセスを辿る前に、少し建物の歴史をおさらいしておこう。

前身である「京都丸紅ビル」竣工は昭和13年。当時、四条烏丸は京都におけるビジネスの中心地だった。周りには北国銀行京都支店や日本信託銀行京都支店（いずれも当時の呼称）が重厚な姿を見せていた。そこに登場したこのコンクリートのビルは、京都初の近代ビルディングだった。商われる呉服は京都を代表する産業。名実共に界隈の賑わいのシンボルである。敗戦後には進駐軍に接収されたこともある。当時のアメリカ人の目から見ても立派な近代ビルであったという証だ。

昭和の歴史を刻んだこのビルが、ケイアイ興産株式会社の手に委ねられたのが平成13年。ビルの活用にあたっては、稲盛豊美社長の胸にはある思いがあった。「四条烏丸を、もっと賑やかにしたい」。

とはいえ、現在の四条烏丸通りのイメージといえば、ことに夜の人通りは賑わいから程遠い。ここに往年の賑わいを再び取り戻すというミッションには困難が予想された。しかし、それが託されたのは、ほかならぬ烏丸通繁栄の生き証人のようなビルであった。思えば、これ以上の適任はなかったといえる。

烏丸にふさわしい賑わいを探る

オープンにあたって古いビルの外壁や床を残したまま再生された同施設だが、この手法が採用されるまでにも紆余曲折があった。いったん壊し、新たにビルを建設するという提案もあったという。テナントに高級ブランドをならべるアイデアもあったようだが、バブルの頃ならいざ知らず、きらびやかでラグジュアリー一辺倒のショッピング施設が、本当に京都の人に歓迎されるのか？

地勢的にいえば、既にアパレルブランドは四条河原町周辺に客の流れを掴み、高級な飲食店は祇園や郊外の景勝地へと観光客を誘導している。いずれにしても急ぎ足の観光やあわただしい買い物は、四条烏丸には似合わない。構想には修整が重ねられ、そのたびに「京都人が求めているものは何なのか？」「四条烏丸に相応しい賑わいの形とは？」という問いが浮上した。

はっきりと意思表示をしない京都人の心に分け入り、「いま彼らは何を求めているのか？」を考えることは、寡黙な患者（クランケ）を相手に分析とセラピーを施すようなものかもしれない。京都人には華美よりも実質を重んじ、心や歴史、そして日常生活を大事にする気質があると言われる。物質的な豊かさがひと通り実現された今、顕在化するのはそうした京都人の昔ながらの気質ではないか？

ビルが目指すものは「豊かな時間」「大人のライフスタイル」「新しい生活文化の提案」と定まった。こう発想されたことの背景には、かつて消費をリードした百貨店から効率の悪い部門として家庭用品や家具部門が切り捨てられてきているという分析もあった。衣食足りた時代にこそ求められる住空間やくつろげる時間の提案が、長らく空白になっていたのだ。

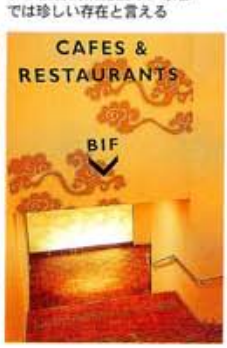
かくて、戦後百貨店に賑わいをさらわれた四条烏丸が百貨店の死角をつく形で「大人のためのライフスタイル」を提案し、大人の心を満たす時が来た。

気鋭の建築家が見抜く「京都の型」

コンセプトが決まるとビルの再生のあり方も

3Fに日本映画を中心に、アート系作品をセレクトする「京都シネマ」。特に音響のすばらしさは特筆モノ

地下はダイニングゾーン。地階を全店、飲食店で構成する複合商業施設は、京都では珍しい存在と言える

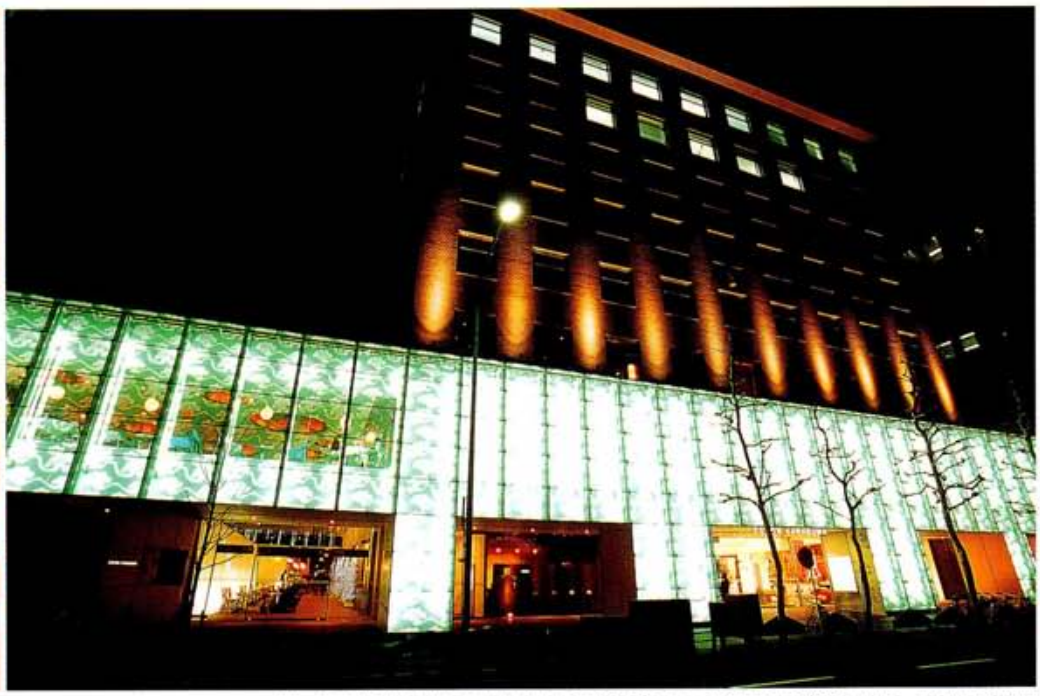


大きな空間を生かしたアトリウム部分。「スーホルムカフェ+ダイニング」「オーバカナル」と、2つのカフェが入る

北欧インテリアの代表格、ヤコブセンのチェアをゆったりと試せる売り場。「アクタス」は体験型ショップだ

ふっと息を抜くような空間がそこここに見つかるのが、このビルのゆとり。床と階段は旧ビルのまま

フランスに来たかと見まごう「オーバカナル」のインテリア。フレンチテイストのフードも期待を裏切らない



グリーンの文様が鮮やかな ファサード。唐紙の老舗「唐長」の「天平大雲 寺家好み」という、縁起のいい文様だ

見えてきた。豊かなライフスタイルは今、スクラップ&ビルドによってなしえるものではない。それは古い器に斬新な料理を盛り、町家から最新のモードを発信する京都の技が証明している。古い物に新しい意匠と息吹を吹き込む手法は「リノベーション」と呼ばれ、ポスト・バブルの現代に注目されているものだ。その手法を用いて、古い姿を残したまま再生されることになった。その建築に白羽の矢を立てられたのが気鋭の建築家・隈研吾氏だった。隈氏がこのビルの中に描いたのは、「型」の再生という概念だった。京都の町家に見られる、奥へ奥へと展開する空間をビルの中に再現すること。そして、これも京都の特徴である「過去と現在の時間の重なり」をファサードにガラス壁を巡らせることで表現すること。

ファサードの意匠には、創業三百年を数える唐紙の老舗「唐長」のグラフィックをシンボルとして採用することが決定した。こうして隈氏は手つきも鮮やかに、このビルを京都人＝クランケを満たす時間と空間の創出へと導いたのである。

初モノ尽くしのショップ

次にテナント。ラインアップには京都人のもうひとつの気質「あたらしモノ好き」を刺激する要素が加わった。2フロアを使った「アクタス」は売り場面積1900㎡で関西最大級。ディスプレイは寡黙にして品が高く、売り場を歩けば「インテリアで生活を豊かにする」というショップのメッセージが自然に伝わってくる。

カフェは「スーホルムカフェ+ダイニング」と「オーバカナル」。これも関西初の出店だ。方や北欧のインテリア、方や正統ヨーロピアンカフェ。喫茶王国・京都に新たなカフェ文化が接木された。いずれもこのビルの特徴である、奥行きの深い空間を贅沢に使っている。そして高品質のアートシアター「京都シネマ」とギャラリー「シンビ」が、最新の映像文化とアートを発信している。

地階の飲食ゾーンは「利口で美味しい」という条件を満たした上で、大人の舌に応えるだけのクオリティと話題性を備える店が厳選された。神戸からの本格中華「老香港酒家」、東京からの「キムカツ」など京都初の店や、「天天有」「鮨レストラン囲」など京都ならではの店が選ばれている。また飲食店で1軒だけ、テナント階最上階の3階にブッフェレストラン「ザ・ブッフェスタイル・サラ」が入っているのに注目してほしい。これは、大人の心にインプットされた賑わいの記憶＝百貨店の最上階の大食堂を、現代的な豊かさで再現するという趣向だ。

未来の古きよき思い出へ

四条烏丸から少し南へ、そのわずかな立地的ハンディも、静けさとくつろぎを求める大人のニーズにはむしろ適う。オープン後の集客は、数よりも質的な充実をみせているという。たとえば「KIRA KARACHO」に並ぶ手刷りの唐紙カードに施された職人仕事にじっと見入る目の肥えた客。そんな成熟した客筋をつかみながら、このビルは年間300万人の大人の集客を目指している。

このビルの前で「ああ、丸紅さんだったビルが、こんなハイカラになって」と見上げる熟年客の姿が絶えないという。古きよき時代を知る京都人の心の中には四条烏丸の賑わいの記憶が確かに蘇っている。ここにこれから新たな賑わいを作り、それを古きよき思い出へとつなげてゆくのは、もちろん次の世代の我々だ。

COCON烏丸

■京都市下京区烏丸通綾小路上ル水銀屋町620番地
☎075・352・3800（代表）／不定休

京都シネマ（3F・映画館）
☎075・353・4723
営業時間は上映時間による

シンビ
（3F・ショップギャラリー＆スタジオ）
☎075・352・0844
11:00〜21:00

ザ・ブッフェスタイル サラ
（3F・ブッフェレストラン）
☎075・353・5943
11:00〜17:00
17:30〜23:00（入店1時間前まで）
【平均予算】
昼1580円　夜2580円

スーホルムカフェ+ダイニング
（2F・カフェダイニング）
☎075・353・5644
11:00〜24:00
（金土・祝前日〜翌1:00）
【平均予算】
昼850円　夜3800円

アクタス
（2F・インテリア）
☎075・354・0011
11:00〜21:00

オーバカナル
（1F・カフェ）
☎075・371・0033
10:00〜23:00（L.O.22:00）
【平均予算】1000円

KIRA KARACHO（1F・唐紙）
☎075・353・5885
11:00〜19:00

オデット（1F・花）
☎075・353・4687
11:00〜21:00

アウラ ショップ
（1F・インテリア＆マテリアル・ショップ）
☎075・353・6554
11:00〜21:00

リスン
（1F・インセンス）
☎075・353・6466
11:00〜21:00

鮨レストラン囲（B1F・寿司）
☎075・371・1110
11:30〜24:00
【平均予算】
昼1500円　夜4500円

ナチュラルキッチン麟
（B1F・和風創作ダイニング）
☎075・353・5788
11:00〜23:00
【平均予算】
昼800円　夜3000円

天天有（B1F・中華そば）
☎075・361・9899
11:00〜23:00
【平均予算】800円

キムカツ
（B1F・とんかつダイニング）
☎075・352・1129
11:00〜15:00　17:30〜23:30
（いずれもラストオーダー）
【平均予算】2200円

ハブ（B1F・英国パブ）
☎075・353・4858
12:00〜24:00
【平均予算】1000円

老香港酒家（B1F・中国料理）
☎075・341・1800
11:00〜15:30
17:00〜22:00
【平均予算】
昼2500円　夜10000円